

## 恵庭市総合計画審議会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会 専門部会（第5回地域振興部会）	
日時	平成17年7月21日（木）午後1時00分～	
会場	市民会館（2階）大会議室	
出席者	委員～松尾委員、井関委員、村本委員、吉岡委員、原田委員、 岡田委員 市側～銅道総務部次長、東企画財政部参事、北岡経済部次長、山崎 農業委員会事務局長、竹内島松支所長、竹村企画財政部長	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主査 吉田 義信

1. 開 会
  2. 審議事項
    - (1) 基本計画検討案について
    - (2) その他
  3. 閉 会
- 

### ○ 会議の概要

基本計画・地域資源（P59～）から検討を始める。

#### 【地域資源の分野】

（岡田委員）恵庭ブランドについてですが、周りの人や市民に認知されていないとブランドというものが成り立たないと思いますが、ブランドについて、具体的にどのように考えているか教えてください。

（市）今の恵庭は、ブランドとなるような、売りになる部分が無い町ですが、素材があるかと言われれば、無いわけではなく、一杯ある。それらを顕在化させていきたい。主な所として、道と川の駅になると思いますが、そこで特産品、花など恵庭のものをどんどん情報発信して、こちらが作りあげるといより、来た人から恵庭のまちのメインとなるものを決めてもらうように持っていきたいと考えています。

（松尾部会長）花のまちというイメージがブランドと考えているのですね。

（市）花というのは大きなブランドのイメージになるものと考えています。また、それを軸に、地元農産物などを増やしていくということも考えられます。

（村本会長）花のまちがブランドとして広がって行って、花を工夫したものが特産品に生まれ変わっていくこともありますね。花のまち恵庭のイメージを付けて、特産品をつくるという考

え方で持っていった方がわかりやすいと思う。

(市) ブランドとして、花の他にも別なものがあると思いますが、花を主軸に、色々なことを考えていきたいと思います。花を生かした特産品の他に、家庭で花を押し花にして、情報発信の場で、そこで売るといふより、色々なものとかけ合わさることでイメージが広がっていくこともありますし、花で何ができるかということで、缶を開けてそのまま花を育てられるものはどうかという提案もありました。

(松尾部会長) まちのイメージは、市民が培ってきて、いいところまで来ているが、ただ、特産品の開発は、恵庭ブランドとなるものをどうやって創って、イメージアップしていくのか、いかに消費者に認めさせ、定着させるか、これからの取り組みとなる。

恵庭には、かぼちゃや馬鈴薯などのたくさんの農畜産物があり、それを2次、3次加工して消費者のニーズを掴むようなことを生産者がこれまでやってきたが、しかし、時代背景も変わってきており、これからの特産品づくりでまちづくりに生かすようにするには、1次産業だけではできない。2次、3次産業と連携しながら生み出すようにしていかなければならないと思う。

地域資源というところでは、何があるんだというところだけでなく、それをどう活用するのかというところまで踏み込んで考えていく必要がある。

(村本会長) 恵庭のイメージのものをもって特産品をつくっていくというように方向付けをした方が、話がわかりやすいと思う。花のまちなら花のまちでブランド化していくということを決めないと、花の特産品が生まれてこないと思う。

(市) 特産品とブランドについて、「恵庭は自然豊かなきれいなまちだね」というように景観がブランドになる場合があり、売る物だけでなくとも考えています。

(松尾部会長) 花のまちというのは出来上がってきているが、次期計画では、さらに官民一体となってどこまでやっていくかということまで入っていかなければならない。花のまちと言えば恵庭というところまでアップしていくようなところをめざすことが必要と思う。

気になっていることですが、札幌方面から恵庭に帰ってきたとき、駅周辺をみても花のイメージが無い。こうした中で、花のまちを行政と市民が一体となって、どう取り組み、どう創っていくのかをきちんと打ち出してほしい。

農村地区では、学校前の排水路沿いに花を植えたり、道路沿いにチューリップやコスモスを植えるなど地域で取り組んでいるところがある。花のまちのブランドというのであれば、地域も企業もそういう取り組みを進めていかなければならないと思う。

(村本会長) 花のまちであれば、恵み野地区をはじめ、市民がやってきて一定の成果をあげているが、今後、もっと広げていくのであれば行政としてどうするのか、進出してきた企業までにもどうするのかというところがないとブランドというものが確立していかないと思う。

基本計画は5年間の計画だから、もっと明確にしていかなければならない。

(井関委員) 恵庭の花といえばスズランがあるが、どこで見られるのと聞かれてもわからない。それを見られるところをつくって、全国に広めるように強調していった方が良いと思う。

今、花のまちのイメージ、環境づくりのための体制ができていないと思う。市民の自主性、自発性に任せきりで、他から来た人に恵庭は花のまちのイメージが強いと思わせることが必要で、例えば工業団地でどのようにするというようなことが無いと思う。特に、玄関口となる駅周辺には必要で、5年以内に確立していくということがないと漠然とした計画に思えてしまう。

(市) 究極の目的は、恵庭ブランドの構築だということで、この5年間で仕組みづくり、イメー

ジブくりをやって行きたいと考えています。

(村本会長) 恵庭ブランドについて、今は花であるが、その花を考えていく、ただ、それだけではないので、他にあるものも考えていく。それを基本に、花による特産品の開発があり、他の品の特産品の開発がある。ということだと思う。そういう位置付けが必要。

(井関委員) 地域資源に人、人材というものは入らないのですか。高齢者の中に、これまで成績をあげてきた人が何もしていなく、地域に貢献していないように見える。そういう人達を恵庭のために活用していただいた方がまちのためになると思う。

(市) 地域資源について、自然や景観、歴史、特産物だけでなく、人や、地域活動なども含めて広く捉えています。福祉とか他の分野のところでもふれています。

(松尾部会長) 将来都市像にあるように、水、緑、花が地域資源のメインになると思う。花をブランドとしてイメージを打ち出していくと行政が言ったときに、現状では、恵み野のガーデニングブームに乗っかかっているだけで、これで良いのかとなる。本当に花のイメージをブランドとして打ち出すのであれば、行政も市民もどう取り組み、どう進めるのかということを出していかなければならない。それがなければ、策定に当たった私たちも、花のまちのブランドとは何かということに対し説明ができないので、花のまちの考え方やイメージをこの計画の中でつくって提案してほしい。

特産品の開発について、地場産にあるもので、イメージにあったものを創っていき、道と川の駅でどう展開していくかが今後のことになるということでまとめたい。

#### 【観光分野】

(村本会長) えにわ湖周辺的环境整備について、むやみに木を切ったり、建物を建てるような乱開発はしないで、自然を生かしていくということであれば、そういう表現を付け加えて説明した方がより明確になると思う。何かするのかなと思われてしまうのでは。

(市) そういう表現で考えてみます。

(岡田委員) 観光振興計画についてですが、観光というと一般的に夏場のことが多いのですが、冬のことを考えていくのですか。

(市) 観光に対する考え方が、この 20 年間で大きく変わっており、総合産業的なものとして、環境やすべてのものを含めてやっていかなければならなくなっており、計画でも謳っていかねばならないと思っています。委員の話も含めて計画づくりを進めて行きたい。

(井関委員) 道と川の駅に絵葉書を置くのでしょうか。今までそういうものがなく、恵庭に来たお客さんに渡すものがなくて寂しいと思っていた。まちを紹介することにもなると思う。

(村本会長) 北海道のサービスは 3 流、5 流と言われますが、受け入れ側のレベルアップも必要と思う。また、ここで写真を撮るとききれいですよというような案内板があれば、実際に良さを感じてもらえると思う。そういうようなことも振興計画の中に含めていただきたい。

(松尾部会長) 今回、観光事業として、初めて事業の方向性を打ち出してきており、どうやって育てていくのかということにウエートを置きながら、市外の人をどう入り込ますか、人の集まる場所をどう作りだしていくかということですので、こういう方向でお願いしたい。

#### 【工業分野】

(村本会長) 地場産品PR事業とは、具体的にどんなことをするのですか。

(市) 来年できる道の駅でのPR事業が主なものになると思います。

(村本会長) 企業立地に関しては、将来的に、食の面で進めるといった形がよいのではないか。水も良いし、空気も良い、食材も良いので食品というように、差別化してやった方が良いのでは。

(井関委員) 漠然と企業誘致しないで、ひとつに絞って誘致活動を進めてほしい。かつて、ハイテクという時期もあったが、ローテクでも良いという感じですし。そういう面で、水が良い、空気が良いということでアピールすると良い。

あと、地元で立地している企業に企業訪問した方が良いと思う。企業は、全国各地の企業と交流がありますので、(企業進出するような)そういうような企業の情報がありませんかと情報をもらいに訪問するのも良いと思う。インターネットで調べるとか片手間で声をかけるということではラチがあかないと思う。

(岡田委員) 恵庭で、差別化する要素が無いのではないか。他の都市との違いで焦点を絞ろうとしても難しいと思う。例えば、核になる企業があって、そことタイアップして何か新たなものをつくっていくようなことができるというようなセールスができれば良いのですが。いままでやってきたリサーチコア事業とかをきちんとやっていくことが必要と思う。5年間のなかで、新しく絞ってやっていくということになかなかならないと思う。

(井関委員) 恵庭に立地している企業が、案外、地元のことを知らないで、遠いところに発注している。地元にある技術力のたけたところに頼めば済むのに、情報交換がなく、そういう面で損しているところがある。そういう交流を図っているというようなPRも必要。

(松尾委員) 主要事業に異業種交流がありますが、そこで情報交換の場になると思う。恵庭RBPに任せているのは良いとしても、市とRBは上の方でつながっていることなので、異業種交流を単なるうたい文句にしないよう本来のところのものを確認しながらやってほしい。

(岡田委員) RBのリサーチコア事業に対する目標がわからないのですが、この事業に対して、最後の責任を持つところは市なのですか。

(市) 恵庭RBPは、第3セクターで、法人であり、会社として責任を負うことになる。

(井関委員) RBは赤字にならないように努力しているのが現状という感じは否めなく、リサーチコア事業をどうしようというところが見えないところがある。しかし、今のRBは、敷居が低くなったように感じており、補助や助成を受けるのにはどうしたら良いのかとか、新規事業をやりたいということを相談しに行けるようになってきている。

(松尾部会長) 恵庭RBPがこれからの工業分野に欠かせないものと考えており、経営の建て直しということもあるが、第3セクターとしての本来の業務に戻ってやってほしいということ部会として提言していきたい。

#### 【農業分野】

(松尾部会長) 振興公社について、農協が合併したことにより、地域の違いによる部分を行政と一緒にソフト事業をやって行こうと立ち上げたもので、これからは真価を問われることになると思う。

市の方にもお願いしたいのですが、3期農業振興計画についてもそうですが、地区の運営

委員会と協議・連携を図って、地区の人の理解を得ながら進めるようにして行ってほしい。

(市) この場で追加ということをお願いしたいのですが、都市と農村の交流のところ、今、食育ということが重要なことと認識されてきています。子供達のふれあい農園でもそうした取り組みを行ってきていますが、大人についても食の安全さ、大切さを知ってもらうことが大事なことを考えています。主な事業に食育の推進を追加し、取り組みを進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

#### 【商業分野】

(井関委員) 人口が微増しているまちですが、商業については、商工会議所がリーダーシップを発揮しているのですか。

(村本会長) 商業活性化協議会が立ち上がりましたが、そこで十数項目のメニューを挙げていまして、今後、具体的に実施していくことでどう変わっていくのかということを見ていきたいと考えています。

(岡田委員) 新規創業支援事業がありますが、国にも同じような制度があり、同じことをやっていくのか、それとも市独自のやり方でやっていくのでしょうか。

(市) これまで、事業の継続にかかる融資はありますが、新規にやりたいということに対しての支援がありませんので、市独自のものとしてどのように支援していくか考えていきます。

(松尾部会長) 現在、商店街活性化協議会を立ち上げ、市と商工会議所が共同で全市的に活性化していこうとしていること自体が活性化につながると思っています。今、いろいろなところで動いていると思うのですが、それをどう支援していくかということが重要と思います。

また、地元のことで、島松町内会では、お金があるなしに関係なく、町内会全体で動いており、町内会が責任を持っているとやっている。活性化につながっており、そういうのを参考にしていってほしいと思う。

今回、活性化協議会がやってくれた商品券についても、市内がどう潤うか協議してくれただけで活性化につながると思うし、大量の予算を使って協力することでなく、各町内会がこのことに対しどう活用するかということを考えてもらい、結果として、それが地元企業に回っていくことになると思う。

まとめとしては、商工会議所が中心となってやっていただいている活性化協議会の取り組みに対して全面的にフォローしていくということになると思います。

#### 【労働環境・消費生活分野】

(松尾部会長) 働く場、特に高卒の働く場が無いのが問題と思いますが。

(村本会長) 市の職業相談窓口に多くの登録があるのですか。

(市) 常時、700名位の登録があり、ハローワークの情報を紹介しています。

(井関委員) 商工会議所のエッグプラザはどうなっていますか。

(村本会長) 紹介事業を行えるようになった。(道内で2番目) 雇用する側の企業の登録を先に増やすよう努力している。

(松尾部会長) 農協においても、人材雇用システムをつくって登録してもらっていますが、登録

者が足りなく、まだまだ欲しいという農家側の声があります。チラシなどを貼って募集していますがなかなか集まらないということがあります。

消費生活について、個人情報が悪用される傾向にあり、相談相手として市の窓口での対応が一番頼りになるところと思います。

(井関委員) 省資源・リサイクル活動にもっと力を入れていかなければならないと思う。

(市) ごみ処理分野の方で重点項目となっておりますが、消費者協会の方でも力を入れていきたいということを書いておいて、ここにも記載をしています。

#### 【協働分野】

(岡田委員) 主な事業に個人情報保護条例の遵守と書いてありますが、当たり前のことを言っているように思えます。何か有ったのかなと思われてしまうのでは。

個人情報について、市役所だけでなく、学校の情報を漏れないように、しっかり保護する取り組みをお願いしたい。

(市) 情報公開の中で、基本的な部分として、改めて表現していますが、説明の中でしっかり表現するような形にしたいと思います。

(村本会長) 情報サロンについて、駐車場がなく、歩いていく市民しか利用できない。費用対効果という考えも必要で、もっと利用されるように考えていかなければならないと思う。

情報発信していかなければならないが、行えば良いというだけでなく、あり方も含めて、きちんとした考え方を持って行っていただきたい。

(松尾部会長) 市民参加の部分に対し、市民の理解が得られるかが大事なテーマだと思います。

#### 【男女共同参画分野】

(松尾部会長) 法律もできて、まちづくり計画の中で謳っていかなければならないことと思う。市役所でも、女性職員を管理職に登用するなど積極的に進めてほしい。

主な事業で、女性登用の促進となっているが、逆に男女差別ととられかねない表現に思うが。

(市) 現在、審議会に女性委員が少ないという現状を引き上げたいという意味で載せています。

予定時間が過ぎた為、会議を終了。次回も、引き続き審議していくことを確認。